

# まずは知ることから、

## 始めよう



地区センターに響く、明るく元気な声。ダウン症の人たちとその家族が集まる団体「ゆずり葉」の中のダンスチーム「ゆずりんず」の練習に足を運び、ダウン症の子どもや家族の想いを知るために、取材をしてきました。

### 障害という個性がある

ダウン症の人たちは、健常の人と比べて発達が緩やかです。個人差はありますが「明るくて優しい」「感情表現が豊か」「人懐こい」などの個性を持っていて「人の真似をして覚える」という傾向があります。この日も、先生や周りの友達の真似をして、ダンスの練習に励んでいました。

### ノーマライゼーションの第一歩

ゆずり葉の代表、小嶋さんは「我が子がダウン症だと分かった時は、これからどうしたらいいんだろうって、不安でした。でも、ゆずり葉に入ってから色々な情報を得たり、不安や悩みを共有



ゆずり葉代表 小嶋友子さんと娘の愛ちゃん

## 理解し合うことが、何より大事



### 仲間同士、理解し合って働く

「勤めて27年になります。信頼できる仲間を支えられて、毎日気持ちよく働いています」と手話を交えて教えてくれた佐藤さん。世界でも有数の機械メーカーである東芝機械で、工作機械の組立工程の屋台骨を支えています。グループリーダーである勝間田さんは「心配り、目配りができる佐藤さんから、学ぶことがたくさんあります。社内放送が聞こえなかったら、僕たちが伝えてあげればいいだけのことです。障害があるからって特別に意識したこ



東芝機械株式会社 佐藤友博さん

することができて心強いんです」と話します。

同じ悩みを抱える家族同士で情報を共有するだけでなく、ダンス活動を通しての情報発信などもしています。「娘だけでなく、この子たちの個性について、まずは知ってもらいたいです。健常の人たちと同じところもあるし、違うところもある。ダウン症について少しでも知ってもらえたら、身近に感じてもらえるんじゃないかな。まずは「知ってもらおうこと」がノーマライゼーションに繋がると思っています」と教えてくれました。

### 正しい理解と認識を深めよう

本市では毎年12月に「障害者週間」市民の集いを開催しており、今年、ゆずりんずは初参加でダンスを披露します。小嶋さんは「障害のない人にこそ、ぜひ来てもらいたいです。今は本番に向けて、みんなでダンスの練習を頑張っている最中です。当日は、ゆずりんずの元気いっぱいなダンスを楽しんで下さい」と話します。ゆずりんずのメンバーも「ダンスを頑張るので、見に来てほしいです」と満面の笑みで意気込みを語ってくれました。

市民の集いは、講演や映画を通して障害について知ることができる、またとない機会です。誰もが住みやすいまちの実現に向けて、ぜひ足を運んでみて下さい。



(写真左から)中村さん、佐藤さん、勝間田さん

とはありませんよ」と笑います。

障害を意識せず、当たり前のようにお互いを気遣える職場環境は、ノーマライゼーションの見本といえそうです。

### 誰もが働きやすい職場とは

取材を通して、障害のある人が気持ちよく働くためには、一人ひとりの異なる特性を理解することが大切だと分かりました。そのためには、丁寧にコミュニケーションを取り合い、互いの長所を尊重することが必要なのではないでしょうか。

皆さんの職場はどうですか。心理的なバリアがなかなか拭いきれず、障害のある人が、職場の習慣や人間関係に適応したり、安定して働き続けたりすることが難しいといった状況も、まだまだあるのではないかと思います。理想的な環境が少しでも増えるように、皆さんの周りでも、話し合ってみませんか。

### 第32回沼津市「障害者週間」市民の集い

今年は「みんなでつくる 差別のないぬまづ」をテーマに開催します。先天性の視覚障害があるお笑い芸人で、R-1ぐらんぷり2018優勝者の濱田祐太郎さんもやって来ます！

とき 12月8日(日)、10時～15時20分  
ところ 市民文化センター小ホール  
内容 障害のある人の体験発表、ダンスパフォーマンス、映画上映、記念講演

※当日、直接会場へどうぞ。



詳細はこちら



### ともに生きるまちを目指して

誰もが同じように権利を享受できる社会が通常である、という考え方のノーマライゼーション。福祉先進国である北欧の国々では「ノーマライゼーション」という言葉が使われなくなるほど、それが当たり前の社会になっているそうです。

今回の特集では、障害のある人や、ともに過ごす人、支える人、働く人の言葉を紹介しました。その中に、私たちができる環境づくりについて、意外な発見やヒントとなることがあったのではないのでしょうか。普段、障害のある人と触れ合う機会の少ない人でも、障害のある人を少しでも身近に感じ、理解を深め、考えるきっかけになれば幸いです。

ノーマライゼーションが当たり前になることで、誰もが暮らしやすいまちになります。その「当たり前」は、みんなが築いていくものではないでしょうか。一人ひとりが少しずつ気遣いをすることで、本市が目指す「だれもが自分らしく、お互いを思いやり、ともに生きるまち、ぬまづ」に近づいていくはずですよ。

